

## 令和6年度第3回行政評価委員会（しごと部会）会議録

### 1 開催日時

令和6年8月28日（水）10：00～11：30

### 2 開催場所

花巻市役所新館3階会議室

### 3 出席者

#### （1）委員5名

影山一男委員（部会長）、小田島浩徳委員、細川祥委員、阿部久美子委員、高橋和也委員

#### （2）説明者（施策関係部長、施策主管課長）2名

商工観光部：伊藤昌俊部長

観光課：松田隆課長

#### （3）事務局（施策及び事務事業担当課）

秘書政策課企画調整係：阿部ゆうみ主査、澤田宇利主査

財政課：佐藤亜美主事

### 4 議題

市が実施した施策評価のうち、花巻市行政評価委員会の評価対象施策である「観光の魅力向上」について評価を行った。

#### （1）施策主管課による説明、質疑応答

#### （2）委員会の評価結果の集約

### 5 議事録

#### （1）施策主管課による説明、質疑応答

（小田島浩徳委員）「3 成果指標の達成状況」について、達成度Dという評価となっているが、成果指標の3項目については達成度cという評価であり、これをDと評価した理由はなにか。

（阿部ゆうみ主査）これは、成果指標ごとの達成度が小文字のa、b、cと三つに分けられ、達成率100%以上だったものをa、達成率90%以上100%未満をb、90%未満をcと設定している。成果指標が複数ある場合、成果指標のそれぞれの達成度のa、b、cの数によって施策の達成度がA、B、C、Dと決まるものである。

この施策については各成果指標の達成度が全てcであり、施策の達成度としては

D（達成できなかった）という評価となる。

（影山一男部会長）私もこの部分は疑問に思っていた。定義どおりに評価されているのだと思うが、観光事業については、コロナの影響があり、100年に一度あるかないかという非常に大きな影響を受けた事業である。成果指標の達成度がcということであるが、コロナ以前の状態に向けて少しずつ回復し、酒匠館については前年度比185%を記録している。機械的に行うとそうならざるを得ないが、コロナ明けで回復しているという状況を踏まえて評価というのはいかなるものか。

（阿部ゆうみ主査）そこを補うために文章で説明を書いているところではある。

（阿部久美子委員）この目標値の設定が高いため達成率が低くなっているのではないか。この目標値についてはコロナ前の状況から上げて設定しているように感じる。

（松田隆観光課長）コロナの影響により目標値を下げる調整等はしておらず、コロナ前の状況を前提とした目標値としている。

（阿部久美子委員）私も観光業に従事しているが、コロナ前の水準にはなかなか戻らない。確実に回復はしているが、やはり団体客等は全然動かないのでコロナ前までは戻っていない。

しかし、すごく頑張っているのに、Dという評価は厳しすぎる印象を受ける。評価としてはもう少し良い評価でもいいのではないかと市民目線として思う。

（影山一男部会長）阿部委員が紹介してくれたとおり、いろいろ回復して、業績が上がっているという記述があるので、だからこそ3つの成果指標の結果がcで施策の達成度がDというとなかなかと質問が出るのだと思う。しかし達成度のところは、定義どおりやるとこのようになるということですね。

もう一つこれに関しては2～3年前にも議論があったが、100年に一度というような大きな時代の変化であったので、目標値を下げる等の変更をしても良かったのではないかとと思う。

そうすれば、例えばイベント来場者数について令和2年は5万人、令和3年は少し下がったが、令和4年の29万人、令和5年は46万人という形で、10倍に増えている。このあたりのところを踏まえると、Dという評価は厳しいと感じる。もう少し柔軟にできればと思う。しかし柔軟にすると評価にならない場合もあり難しい面もあると思う。

（細川祥委員）達成度にルールがあり、そのとおりに書かざるを得ないということであれば、達成状況に関する背景要因の部分に、「目標値はコロナ禍を前提にしない時に立てた目標値である。」という点と、「5類移行により着実に回復基調にはあるものの、コロナ前のペースまでは様々な要因で戻りきっていないという現状がある。」という点があれば説明になる気がする。

(阿部久美子委員) 日頃思っていることだが、観光客と接していると大谷翔平選手のモニュメントについて市ではほとんどPRされてないように感じる。私が紹介すると行って良かったとお話いただくことが多い。

モニュメントのPRについて市でどのように考えているのか。温泉協会等の民間でPRしている印象はある。この施策についても花巻東高校エリアといったものは触れられていない。

(松田隆観光課長) いろいろな事業の紹介、イベントの挨拶で触れさせていただいている。PRとしては観光協会ホームページ等でお願ひすることとなる。

(伊藤昌俊商工観光部長) 温泉組合が作ったモニュメントであるが、我々もパンフレットを作って配布している。

今年度は観光に来た方々がWi-Fiを使えるように、新花巻駅と花巻駅、そしてこのモニュメントの付近にフリーWi-Fiの設置を市で行う予定である。Wi-Fi設置により写真を撮りSNSに上げてもらうようなことはできるものと思っている。

我々としては、花巻東高校、大谷翔平さん、菊池雄星さんを応援するということはあるが、それを観光として前面に打ち出すのではなく、あくまでも応援という形でやっている。モニュメントには多い日で100人程度来ているというお話もあるので、浸透はしてきていると思っている。

(阿部久美子委員) 一つの大きな観光施設になりつつある。見所が一つ増えたので、案内するにはありがたいので、もっと市が整備等予算に組み入れてもいいのではないか。事業の中にあのエリアの整備をしていければいいのかなという気がする。

(伊藤昌俊商工観光部長) その一環としてWi-Fiの整備を行うが、ご意見としてありがたいと頂戴する。

せっかく整備していただいたので今後もPRしていきたいと思う。また、新花巻駅の待合室にも花巻東高校の監督等のご厚意で選手のものをお借りして展示しているのでそちらも合わせてPRしていきたい。

(阿部久美子委員) 観光列車「ひなび」の利用状況はどうか。

(松田隆観光課長) JRからは個別の話は聞いていないが、SL銀河は釜石線専用で走っていた。ひなびについては青森や久慈、今年は北上線が100周年で、そちらでも走っているということで、この地域としてはSL銀河の時と比べると話題性は薄くなっている。

(阿部久美子委員) 評価シートの中に「ひなび」について話が出てきているが、市として力を入れていくのかいまひとつ見えてこなく、何を支援していくのかがわかりにくい。

(松田隆観光課長) SL銀河の時は、花巻駅が始発駅であり鹿踊り等おもてなしを行っ

てきた。

「ひなび」に関しては、春先におもてなしを実施したが、始発ではなく停車駅のため時間が短いということもあり、上手くおもてなしを行えなかった。

10～12月の秋にはJRの重点販売地域となるので、その時にはおもてなしを復活させると観光協会から聞いている。

(細川祥委員) 最初の「現状と課題」のところに旅行形態が団体旅行から個人旅行へ変化しておりニーズが変化しているという指摘があるが、その部分について「今後の方向性」の部分で取り組みとして考えていることはあるのか。

(松田隆観光課長) 国内旅行者は、団体旅行が減っており、市内に宿泊してもらうには情報発信が必要である。観光協会は情報発信が得意であり、観光協会が情報発信できるよう補助金を出して、閑散期の宿泊などに繋げるように活動していただいている。

また、国内旅行者が減っていく将来的な見通しもあるので、今後外国人旅行者を取り込んでいきたいと考えている。こちらについても観光協会の外国人向けのホームページがあるので、それを外国の方が検索して花巻の情報を得られるようにホームページを改修する事業に補助金を出して、今年度作業している。

(伊藤昌俊商工観光部長) 二つあると思っていて、一つは花巻市あるいは観光協会がやること、もう一つは温泉旅館等が取り組むこと。

花巻市としては、課長も申し上げたとおり、個人の方々がこれから行くところをインターネット等で調べると思うので、家族で行っても楽しめるような北上川での体験型アクティビティの発信や、先ほど話に出た大谷翔平さん、菊池雄星さんのモニュメント、マルカン大食堂などの情報を出していくということがあります。あとは、花巻だけで完結するかというところではないと思うので、平泉等のモデルコース的なものを情報発信するという部分があると思う。

温泉宿泊施設については、今まで大部屋だったところをベッドルームにして2～3人の部屋にするなど、家族向けに改修等実施している。

(細川祥委員) せっかくいろいろやっていて、そのようなお考えがあり、取り組みもされているということであれば、そのような方向性や、取り組みについての記載があってもいいのではないかと思う。

(小田島浩徳委員) 酒匠館を改修して入館者数が前年比185%だったということだが、前年というのは改修工事中だったと思う。コロナ前の数字と比べるとどのようになっているのか。

(伊藤昌俊商工観光部長) 資料を持ち合わせないため、一旦退出し部会中に確認が取れ次第ご連絡する。

道の駅石鳥谷の改修の中で、展示も変え曳家をして入りやすいようにしたのでおそらくは以前より増えていると思うが確認する。

<退出後確認し以下を報告>

- ・酒匠館の入場者数 平成30年47,748人、令和元年48,322人
- ・平成30年比118%、令和元年比117%

(影山一男部会長) 教育旅行に関して北海道と東京がメインターゲットになっているようだが、例えば宮城県、あるいは花巻空港が名古屋と直結しているのであれば、愛知県内の学校がターゲットにはならないのか。

(松田隆観光課長) 県の観光協会が教育旅行の説明会を主催しており、それに自治体や観光協会が参加しているが、教育旅行だけでなく、全体としてのPRはしているがそこまで力を入れていないという状況である。北海道からは中学生、関東からは高校が教育旅行としてくるのが多い。

(伊藤昌俊商工観光部長) 名古屋便はあるが、飛行機の大きさの問題で、一つの学校、学年を入れられるかどうかという部分がある。また、北海道については、北海道の教育委員会で修学旅行費用の上限額が決まっている。そうすると交通費と宿代、施設利用料、加えてバス代が高くなっているため、北海道から出ないという選択をする中学校も多くなってきている。こういう状況だが、何とか戻していただきたいということで動いているところである。

また、花巻の場合は大きい宿が多いので、1学年を同じホテルで受け入れることや、貸切ができる等の条件は整っているため北海道の中学校、あるいは東京の高校で平泉等に来られる皆さんをターゲットにしている。小学生だとおそらく宮城県から来ているかもしれないが、そこは定期的に来ていただいているものと思う。

宿泊単価も高くなっている中で北海道の誘致を頑張らなければならないということで、ターゲットにしている。

(阿部久美子委員) 修学旅行でもかなり海外に行っていると思いますが、円安で国内にシフトしてくれたらいいなと思う。国内の活性化につながればと思う。

(松田隆観光課長) 商談会に参加した職員によると、京都、大阪の宿泊費、経費がかなり上がっている。今までそのあたりに行っていた人が、東北も検討するようになるのではないかという状況は少しあるようだ。

(伊藤昌俊商工観光部長) 修学旅行については来年の行先は大体決まっているので、今お話しできるのは再来年またはそれ以降となる。私立高校等では海外の修学旅行も多いと聞く。インバウンドの影響により今そういう話が出てきたので、2年後、3年後の集客につながればいいと思う。

(影山一男部会長) 魅力ある観光資源の中で平泉は世界的に注目されているが、早池峰神楽等はユネスコ無形文化遺産に登録されている。その周知についてはどのようにしているのか。

また、早池峰山のハヤチネウスユキソウも有名だと思うがその周知度はどうなのか。

(松田隆観光課長) PRしていきたいと思っているが、早池峰神楽は踊っている方々が専門にやっている方ではなく、平日の昼間は別の仕事をされているという状況もある。1ヶ月に1回定期公演をしているが、いつでもどうぞと大々的に周知できない事情もある。

また、早池峰山については登山シーズンが2ヶ月ぐらいで、近くに宿泊施設も少なく、一気に拡大するようにお願いできない事情もある。

(伊藤昌俊商工観光部長) 加えて、早池峰山については登山道が崩落して大迫側から登れない。今は遠野側からしか登れない状況ということもある。

(高橋和也委員) 「目指す姿」で国内外からの観光客誘致について触れているので、外国人観光客について今後の方向性として引っ張って来ることをもう少し詳しく書いてもいいのではないかと感じた。例えば温泉には年間数百万人の外国人観光客が来ている中で、花巻市内にどれだけ足を運んでいるのかということ必ずしも多くないと思う。花巻は交通利便性が高いから来てもらっているが、観光となると市外に出ていっている。せっかく来てもらっているのだから花巻を感じてもらえるようにすることが必要だと思っているがそれについてはどうか。

(松田隆観光課長) 花巻に来ている外国人の方の8割ぐらいが台湾からの旅行客で、1割が香港から。東京や仙台に飛行機で来て、バスツアーで東北を回るというコースで来ていただいている。

そうすると松島や青森、秋田の観光地を回るコースとなり花巻周辺に時間を使っていた状況にない。花巻は高速道路、空港、新幹線もあり周遊するための宿泊拠点というところでアピールをしていきたい。

なお、花巻に宿泊する外国からのツアーにはバス1台当たり3万円の補助をしており、市内への宿泊に繋げている。

(伊藤昌俊商工観光部長) 本日の評価対象施策は「1-4-1 観光の魅力向上」ですが、施策「1-4-2 観光情報の発信」の中に外国人観光客誘致促進事業が入っており、そこで今課長が申し上げた内容を記載している。

(高橋和也委員) せっかく花巻に来ていただいて泊まってもらえるのであれば、花巻を感じてもらい、また花巻に来たいと思ってほしいと思っていたためお聞きしました。

観光協会との連携についてはどのように行っているのか。また近年人員不足の話も聞くがどうなのか。

今後の方向性に記載している「市町、県、JR、三陸鉄道と連携し」の記述について、この連携はどのくらい形になっているものか。

(松田隆観光課長) 今後の方向性に記載のある、連携は釜石線沿線広域エリア活性化委員会の連携であり続けていきたいと思っている。

観光協会との連携については、観光協会が実施したいことについて市が賛同し補助している。また定期的に観光協会と状況確認をしており、その中で人員不足である状況も把握し、今年度1人職員を増やすための人件費分として補助金を増額したところである。

(伊藤昌俊商工観光部長) 毎年観光協会へ市職員1名事務局長として派遣しており市とのパイプ役となっている。また先ほど申し上げた、誘客部会、物産部会等において市の観光課職員も参加し情報交換を行っている。今年度からは観光協会の人員を増やす補助も行っているため、より一層連携のスピードアップができればと思っているところである。

## (2) 委員会の評価結果の集約【施策評価検証シートの整理】

### ①「前年度の振り返り」の「反映状況」について

(影山一男部会長) 適切に取組みがなされているという評価でよろしいでしょうか。

(異議なし)

### ②「成果指標の達成状況」の「達成状況に関する背景・要因」について

(影山一男部会長) これについては、補足説明としてコロナ以前に設定した目標値により達成度Dとなったことがわかるように記載してはどうか。

また各成果指標の達成度がCであると、施策の達成度がDとなる評価の仕組みについても説明書きがあっても良いのではないかという意見もでた。これらの意見を参考に記載内容を検討して作成するがよいか。

(異議なし)

### ③「施策を構成する事務事業の検証」について

(影山一男部会長) 記載されている事業について説明がされておりわかりやすいため、的確に評価されているということでよいか。

(異議なし)

### ④「施策の総合的な評価」について

(影山一男部会長) インバウンドのことについて少し触れてもよいのではないかと思います。他の施策においてインバウンドについて取り上げているようだが重複してもいいと思う。特に政策では「目指す姿」に国内外からの観光客誘致について書いており、この施策もその一部であり観光客入込数の減少は国内だけでなく国外についてもいえることである。

(異議なし)

⑤「シート記載内容全般」について

(影山一男部会長) ワークーションやブレジャー等は一般的な用語として説明なしに記載があってもいいものか。このような用語は浸透しているものと考えて良いか。

(細川祥委員) 市民向けということ考えるとまだ浸透はしてないのではと感じる。

(影山一男部会長) しかし、これについては一般化していくということで記載の必要はないということでもいいか。

(異議なし)

以上